

注意すべき豚、指標になる豚

リスクの高い豚群（リスクグループ）は、管理と飼育方法がうまくいっているかどうか？ を教えてください。改善すべき問題がある場合には、リスクグループが最初にそれを示してくれれます。リスクグループに問題がなければ、他の豚群も問題ないといえるでしょう。

リスクグループとは、例えば、①導入候補雌豚や、②行動（立つ、座る、横になったままでいる、歩くなど）が困難な母豚、などです。

未経産豚

経産豚と同居させて群飼した場合、未経産豚の寝床は一番悪い場所に追いやられてしまいます。さらに高産歴の母豚に場所を取られてしまうこともよく起こります。未経産豚は豚舎環境について新しく覚えなければならないことがたくさんあり、自分の身体の変化にも対応しなければならないにもかかわらず、あまり休むことができません。未経産豚にとって一番のリスクは、蹄の問題、そして体がまだ未発達であることです。そして妊娠期間の終わりには、分娩舎というもう一つの困難なステージが控えているのです。

未経産豚でも高齢母豚でも、既存の群に新しく豚を混ぜなければならない場合は、常に導入豚同士でまず小グループを形成してから、その小グループごとに既存の多頭群の中へ導入すること（決して、いきなり単独で豚を導入しない）。これによって、全頭の豚同士がお互いに慣れるまでの間、既存群の中でまずは“見知り”の小グループが確保できるので、新規導入豚のストレスを最小限に抑えることができる。豚房は広い方が、そして1群の頭数は多い方が、新しい豚を導入しやすい。いつも安全な隠れ場所があり、まだ占有されていない休息場所があるためだ。

不安

未経産豚に対しても、ストレスは最小限に抑えなければいけません。特に交配後や分娩前後などの時期が危険な時期です。この時期には、豚にとって馴染みのないことや予測できないことを、可能な限り避けることが望まれます。未経産豚だけを予め群飼豚房や分娩房に入れておくと良いでしょう。さらに、未経産豚群と経産豚群を分けると、両者にとってより安全な環境となります。



見て、考え、行動しよう！ あまり動きたがらない豚。どうする？

この母豚は左後肢をかばっています。残りの3本脚で体重を支えているため、背中が弓状に丸まっています。右前ひざには膿瘍があります。おそらくこの豚は、脚にこのような症状を負ってから大分経過が長いと見られます。

この母豚はまだ食欲はあります。探索行動を取っていて、腹も膨れています。コンディションや色ツヤも悪くはありませんが、体重が増えるに従って、危険は増大するでしょう。体重が増えることで脚の痛みが増し、痩せていく可能性があります。

この母豚は、ワラを敷いた病豚房に入れましょう。

十分な母乳が出ているシグナル

母豚のシグナル



母豚が伸ばした脚を柵の上に乗せています。母豚自身が気持ちよく授乳させているシグナルです。なお、分娩当日にはまだ子豚は自分専用の乳房を決めかねている最中です。

子豚のシグナル



子豚たちは安心して母乳を飲んでいました。子豚の尻には張りがあり、毛ヅヤも良好です。子豚の額に付いている黒い汚れは、母乳が飛び散って付着したものです。

Photo: Varkens KI Noord-Brabant/Topigs

泌乳不足のシグナル

母豚のシグナル



張りがなく、泌乳量の乏しい乳房。



左の母豚は授乳中ですが、右の母豚は乳房を隠して寝ています。右の母豚は泌乳力がないため、子豚に必要な以上に乳頭を吸われなように、防御しているのです。

子豚のシグナル



ひざの怪我は、母豚の泌乳量が足りないために子豚が乳房を探しているシグナルか、床面が粗すぎるシグナルです。両方の場合もあります。



子豚はイライラし、乳房を鼻で押し上げて吸うため、乳房が傷ついています。後ろの乳房の傷が特にひどい状態です。母豚が立っている間でも、子豚は母乳をねだっています。母乳が少しでも垂れると、子豚の反応はいっそう激しくなります。

病豚：早期に適切な治療

できるだけ早いうちにリスクを発見し、できるだけ迅速に対応しましょう。病豚への対応には早期発見・早期治療が不可欠です。常に先のことを考えて行動しましょう。常に状況を予測しておくことで、“問題がない状態”を継続することができます。例えば、餌を徐々に切り替えること、夜間寒くなる前に換気を調節しておくことなどです。しかし、インフルエンザなどの予期できない問題が起こることもあります。同様に、他のリスクも常に潜んでいます。増殖性腸炎（ローソニア）などの腸管感染症を早い段階で見つけるためには、注意を集中することが求められます。特に、導入後最初の数週間などは要注意です。

体温測定

豚の体温は直腸で測ります。体調が悪く、発熱している場合には、体温が42℃以上になることもあります。環境温度が高い場合の他、ストレスや闘争によっても体温は上がります。その日齢、その豚群の正常な体温は、健康な豚の体温を測ればわかります。

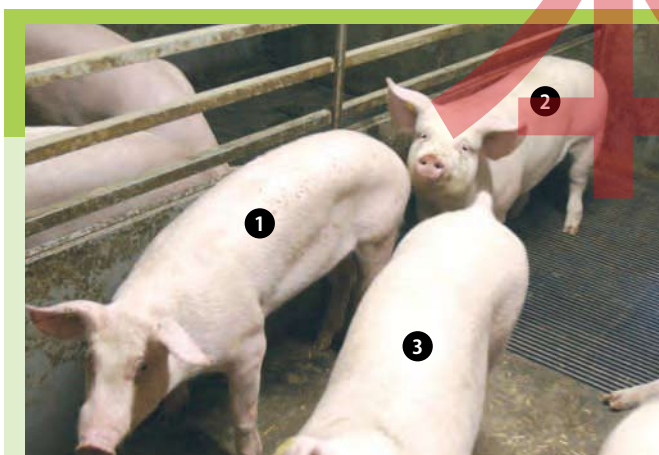
日齢ごとの体温表

| | |
|--------|----------|
| 1～8週齢 | 39～40℃ |
| 8～12週齢 | 39～40℃ |
| 肥育豚 | 39～40℃ |
| 母豚、雄種豚 | 38～38.5℃ |

豚の観察のポイント

| シグナル | 異常の発見が 早い/遅い | 対処 |
|--------------|--------------|--------|
| すぐに起き上がらない | 早い | 注意 |
| 胃が膨れていない | 早い | 経過観察 |
| 攻撃的、転嫁行動 | 早い | 経過観察 |
| 呼吸が速い | 極めて早い | 経過観察 |
| 腹がへこんでいる | 極めて早い | 対策が必要 |
| 餌を食べに来ない | 極めて早い | 対策が必要 |
| 一カ所にじっとしている | 極めて早い | 対策が必要 |
| 背中が丸まっている | 極めて早い | 対策が必要 |
| 毛が逆立っている | 極めて早い | 対策が必要 |
| 蒼白、毛が伸びている | 極めて早い | 対策が必要 |
| 孤立している | 遅い | 対策が必要 |
| 食下量 (kg) の減少 | 極めて遅い | 管理の見直し |
| 発育遅延 | 極めて遅い | 管理の見直し |
| バラつき | 極めて遅い | 管理の見直し |

観察のポイントを表にまとめた。このリストのポイントを無意識のうちに確認している人もすでに多いだろう。その場合も、あえて観察結果を記録し、管理の改善と、勉強のために役立てよう。そうすればより適切な対応ができるようになる。



写真クイズ

何が見えますか？ どのようにしてこのようなことが起こったのでしょうか？

①の豚は背中が丸まっていて、胃が空っぽです。②と③の豚は、腹が膨れています。①の豚の背中が丸まって餌を食べていない理由を突き止めましょう。脚は悪くないですか？ 病気は？ 餌と水は出ていますか？ 脚が悪い場合には観察していればわかります。熱を測れば病気がどうかがわかります。餌と水もチェックすることができます。